

高める 学習意欲を 学力につなげる 授業改革

「学びたい」気持ちが生徒から感じられない。

「学びたい」気持ちを生徒から引き出せない。

そんな思いを日々抱きながら

教壇に立つ先生が多いのではないかと推察します。

小社の2年に1度の調査、

「高校の進路指導・キャリア教育に関する調査」においても、

進路指導の困難の要因として

常に先生方が上位に挙げるのが

生徒の「学習意欲の低下」や「学力低下」です。

そんななか、学習指導要領がリニューアルされました。

知識・技能の提供だけでなく、それを活用できる力をつけること、

また学習意欲を養うことが学校教育に求められるようになりました。

それは文部科学省の方針というよりも

社会からの要請と考えるべきかもしれません。

右記2つの要因から、すなわち、先生方の内面から湧き上がるものと、

教育機関として外部から求められるものことから、

今、「授業を変えよう」という機運が

全国的に盛り上がっているように感じられます。

それを今号は特集していきます。

現在、「アクティブラーニング型授業」を

全校的に導入しようとする高校が増えているようです。

「授業改革」に取り組む学校事例

90分授業の充実を目指し、
能動的な学習スタイルを導入
神奈川県立 藤沢清流高校 >> p.9

探究活動の成果を活かすため、
一般の授業もアクティブに
京都府京都市立 堀川高校 >> p.10

グループ学習の全校導入4年目。
あきらめなくなり成績が底上げ
滋賀県立 草津高校 >> p.17

大学生サポーターが支援する
大学受験のためのグループ学習
神奈川県立 菅高校 >> p.20

生徒一人1台iPadで実現する
「普通科」の未来型学習
千葉県立 袖ヶ浦高校 >> p.21

キー・コンピテンシーを参考に作り上げた
コア・カリキュラムを学力育成の柱に
大阪府立 柴島高校 >> p.24

コーピングで
「やればできる」という自信を育てる
東京都立 稔ヶ丘高校 >> p.26

予備校講師との対決を機に授業公開が加速。
若手もベテランも切磋琢磨する風土へ
三重県立 上野高校 >> p.28

生徒による授業評価を軸に
ベストティーチャー賞を運営し
“教師から変わる”改革サイクルを実現
東京・私立 東海大学付属高輪台高校 >> p.30

OBによる生物講演会で
アカデミックな関心を喚起
東京・私立 海城中学・高校 >> p.32

カード活動を独自に考案・導入し
「数学好き」を増やすことに成功
神奈川県立 希望ヶ丘高校定時制・柳澤隆規先生 >> p.33

そのトレンドを牽引し、
さまざまな高校で導入の支援をしている小林昭文先生に
アクティブラーニングの実践法を伝授していただきます。
また、「グループ学習」「授業研究会」「ICT活用」などに
積極的に取り組む高校の動きをレポートしていきます。
さらに、最新の学習理論や社会情勢から
「授業改革」を行っていく意義を改めて考えます。
これらの記事が、「授業改革」に乗り出す先生方に勇気をもっといただき、
何かしら行動のヒントをみつめてくださる機会になることを
編集部一同、願ってやみません。